



双塔

カトリック新潟教会

2017年3月
No. 346

荒野の試み

新潟教会協力司祭 鎌田耕一郎

(三つの試みⅠ)

荒野におけるイエスの状態はパンを必要とした。ドストエフスキーは「ひとつこの石をパンに変えてみるがよい。そうすれば人間どもは従順で恩を知る羊の群れのようにお前の（イエス）あとを追って、走り出すに違いない」と大審問官に言わせている。しかし、イエスは、現世的な救い主ではなく、肉体の糧ではなく、魂を癒し、養う糧を運ぶために来られたのである。申命記8・3を引用し、人間にとって最も必要なものは神のみ言葉であることを述べられるのである。

ユダヤの民間伝承によれば、救い主は威光と権能をもって神殿の屋根から現れるはずであり、また「人間は神よりもむしろ奇跡を求めるもの、奇跡なしではいられぬものなので、今度は、勝手に自分のために新しい奇跡をつくりだし、祈祷師の軌跡や巫女の妖術にまで頭を下げることになる」

(ドストエフスキー)。しかし、イエスは申命記6・1の引用によって、人々の好奇心や喝采のための奇跡を拒絶するのである。イエスは貧しさと辱め、苦しみと死によって世の罪をあがなうことを望まれたのである。

「この偉大なる悪魔の第三の忠告を受け入れたならば、お前（イエス）は地上の人間の探し求めているすべてのものを満たすことができたのだ」(ドストエフスキー)という。しかし、イエスがその到来を告げ準備する王国は、この世のものではない。それはサタンの約束する地上のすべての王国とその栄華を超えた彼方にあるものなのである。申命記6・13の引用と「サタン、退け」というみ言葉は、厳しさを帯びて荒野を超え、時代を越えて響きわたるのである。

(三つの試みⅡ)

前述の伝統的解釈の他に、現代的理解が可能なのではないかと考えたので、それを記して皆さんのご意見を伺いたいと思っています。

最初の二つの試み一石をパンに変えることと、神殿の頂きからけがもせずに飛び降りることは、文字どおりの意味にとるならば、現代人にとってそれほど大したこととは思えない。物質の変化、および重力の克服という意味なら科学はそれ以上のことをすでに達成しているといえるだろう。

しかし、第三の誘惑は、依然として強烈な現実性を帯びている。地上のすべての国々、一切の権力、あらゆる栄華への約束—当時と同じく今日も、それはなんと魅力的な誘惑であろうか。この荒野において、すべての人は試みを受け、いざなうものと対決しなければならない。とりわけ、権力者たちは第三の試みにあう。政治的支配と権力と栄華のために、ときには国益とよばれる偶像のため、神（愛と正義）を拒否するのである。その時、地上にどのような惨状が展開するかは歴史の語る場所である。ドストエフスキーはイワン・カラマゾフにこう言わせている。「神がないなら、どんなことでも許される」。

そよかせ便り

■ ユスト高山右近 列福感謝ミサ ---- 2月10日(金) 11:00 ----



高山右近像

荒れ模様との予報に反して風が冷たいものの晴れ間も覗いたこの日。2月7日に大阪で列福されたユスト高山右近の列福感謝ミサが、菊地司教様の司式で行われた。聖堂には赤いストラを着けた県下の司祭が前列に並び、60名を越す信徒が列席した。

司教様は説教で、豊臣秀吉の不興を被らないよう表面的な棄教を勧められた高山右近が「神に関することは、一片たりとも曲げてはならない」と答えたという逸話を紹介、「その場しのぎの価値判断がまかり通り、倫理的立ち位置さえ揺らいでいる現代、人間の尊厳ある姿勢を信者だけでなく、すべての人に教えている」と話された。閉祭の歌では、高山右近のテーマ曲「主こそわが光 祈る右近」が歌われた。

■ 入門式 ---- 2月19日(日) 9:30----

キリスト教入信の最初のステップとなる入門式。今年は復活徹夜祭に洗礼を受ける予定の7名の方々が、主日のミサの中で行われた入門式に臨み、「十字架のしるし」と「主の祈り」の授与を受けた。

正式に求道者となった7名の方々は、3月5日(四旬節第1主日)に司教様の司式する洗礼志願式において、近隣の教会の求道者とともに洗礼志願者として、入信の秘跡に向けた準備の最終段階を歩み始める。

写真右:「信仰によってキリストがあなたの心に住まわれるように、胸に十字架のしるしをうけなさい」

あゆみ

No.82 教会運営委員会

講座「知ってるつもり?! 典礼のしるし、ことば、動作」

指 導 主任司祭 ラウル神父様
開催日時 2017年3月11日(土) 午前10時~11時
会 場 カトリックセンター研究室
講座内容 典礼の中で普段している動作、わかっているようで何となくあいまいになっていることなど、主にミサを中心にやさしく解説します。

ミサの後半部分「感謝の典礼」から、「感謝の祈り」(奉献文)を中心に取り上げています。

事前にご用意いただくものではありません。講座はいつからでも参加できます。お気軽にご参加ください。新しい発見があることでしょう。

2017年 四旬節黙想会

指導 カトリック長岡教会協力司祭 ロレンゾ神父様
テーマ お互いに赦しあいなさい
日程 ・3月11日(土) 午後3時~4時 ※講話終了後ゆるしの秘跡
・3月12日(日) 午前9時~9時30分
※講話終了後ミサとゆるしの秘跡